

# 1 流域の自然状況

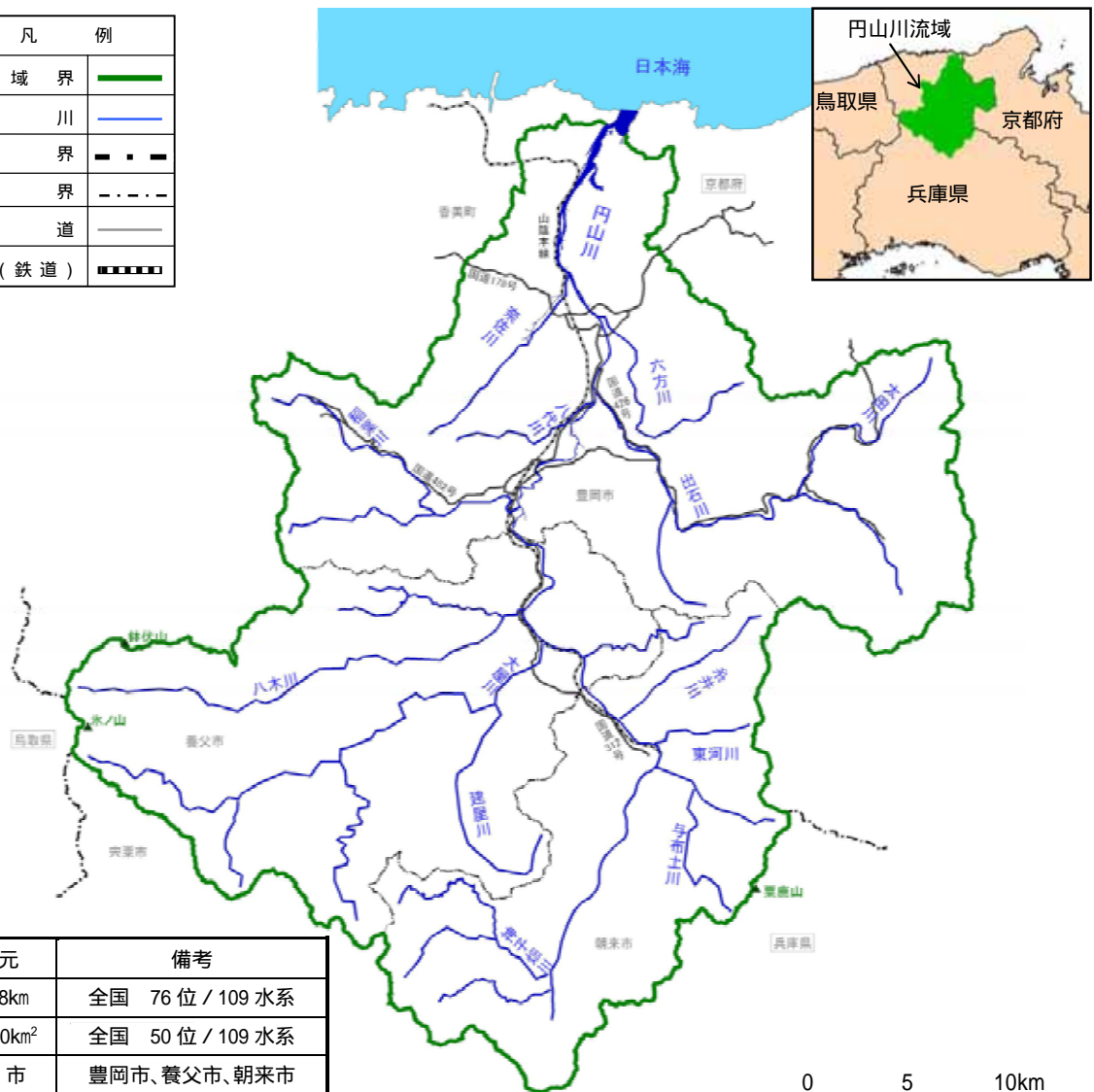
## 1-1 流域及び河川の概要

円山川は、源を兵庫県朝来市生野町円山（標高 640m）に発し、大屋川、八木川、稲葉川等の支川を合わせて豊岡盆地を貫流し、豊岡市において出石川、奈佐川等を合わせ日本海に注ぐ幹川流路延長 68km、流域面積 1,300km<sup>2</sup>の一級河川である。

流域は、兵庫県の豊岡市、養父市、朝来市の 3 市からなり、但馬地方における社会・経済・文化をなしている。流域の土地利用は、山地等が約 83%、水田や畑地等の農地が約 11%、宅地等その他が約 6%となっている。

沿川には JR 山陰本線、国道 9 号、国道 178 号、国道 312 号、国道 426 号の基幹交通施設に加え、豊岡市までの延伸が計画されている北近畿豊岡自動車道が整備中である。さらにコミュニティー方式による但馬空港が開港し、大阪方面との利便性が向上している。また、流域内は山陰海岸国立公園や氷ノ山後山那岐山国定公園に指定され、日和山海岸や国指定天然記念物の玄武洞、城崎温泉、神鍋高原の他、出石城下町などの観光資源に恵まれ、京阪神を中心に数多くの観光客を集めている。下流部では地域を挙げて、国指定特別天然記念物のコウノトリを野生に戻す取り組みが進められ、円山川の豊かな河川環境を保全し、再生しようとする気運が高まっている。このように、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。

凡	例
流域界	
河川	
県界	
市界	
国道	
JR (鉄道)	

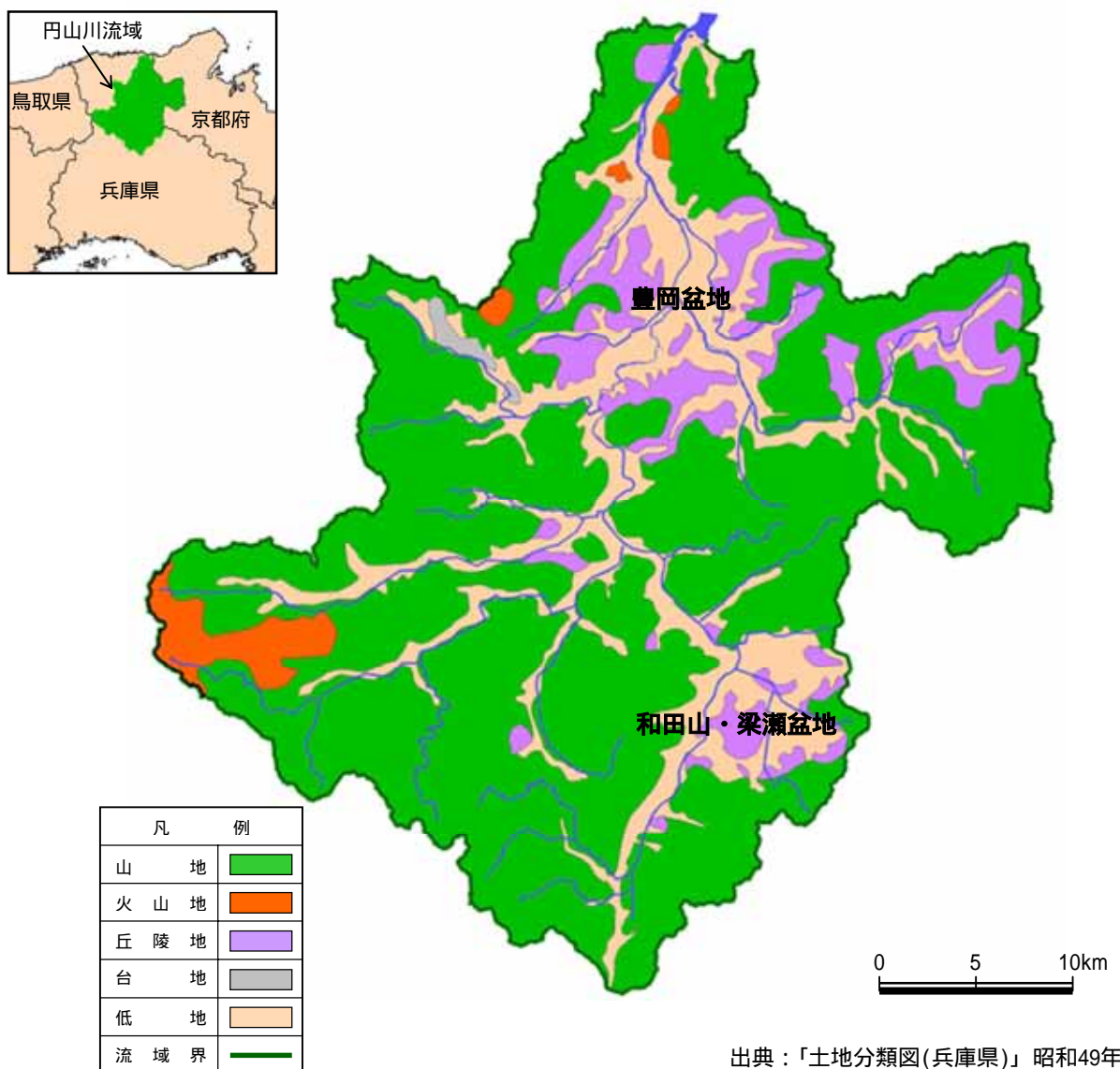


項目	諸元	備考
流路延長	68km	全国 76 位 / 109 水系
流域面積	1,300km <sup>2</sup>	全国 50 位 / 109 水系
流域市町村	3 市	豊岡市、養父市、朝来市
流域内人口	約 14 万人	
支川数	95	

図 1-1 円山川流域図

## 1 - 2 地形

円山川流域は、上流部に氷ノ山（標高 1,500m）をはじめとする標高 1,000～ 1,500m 程度の山々が稜線を連ねて分水界を形成している。上流部には和田山、梁瀬等の盆地があり、小規模な水田地帯を構成している。円山川は、これらの盆地から流出した後、山間部を大きく曲流し、谷底平野を形成しながら下流部の豊岡盆地を貫流している。豊岡盆地では、軟弱な沖積層が地下水の揚水により収縮することが原因の一つとなり、今もなお地盤沈下が継続している。このため、昭和 30 年代以前から、円山川の堤防は沈下と嵩上げが繰り返されてきた。また、豊岡盆地を含む下流の低平地帯では、河口から出石川合流部の河床勾配が非常に緩やかなため、河川からの氾濫が盆地全体に拡がるだけでなく、水はけが悪く長時間浸水することから、内水被害がたびたび発生している。



出典：「土地分類図(兵庫県)」昭和49年  
経済企画庁総合開発局より作成

図 1-2 円山川流域地形図

### 1-3 地質

流域の地質は、新旧各層が入り混じっており、砂岩、粘板岩を主とする古生層が本川上流部及び大屋川上流部に分布し、生野層及び第三紀層が広範囲に分布している。また、円山川沿川には沖積層が分布しており、その主な部分は豊岡盆地の地盤を形成している。

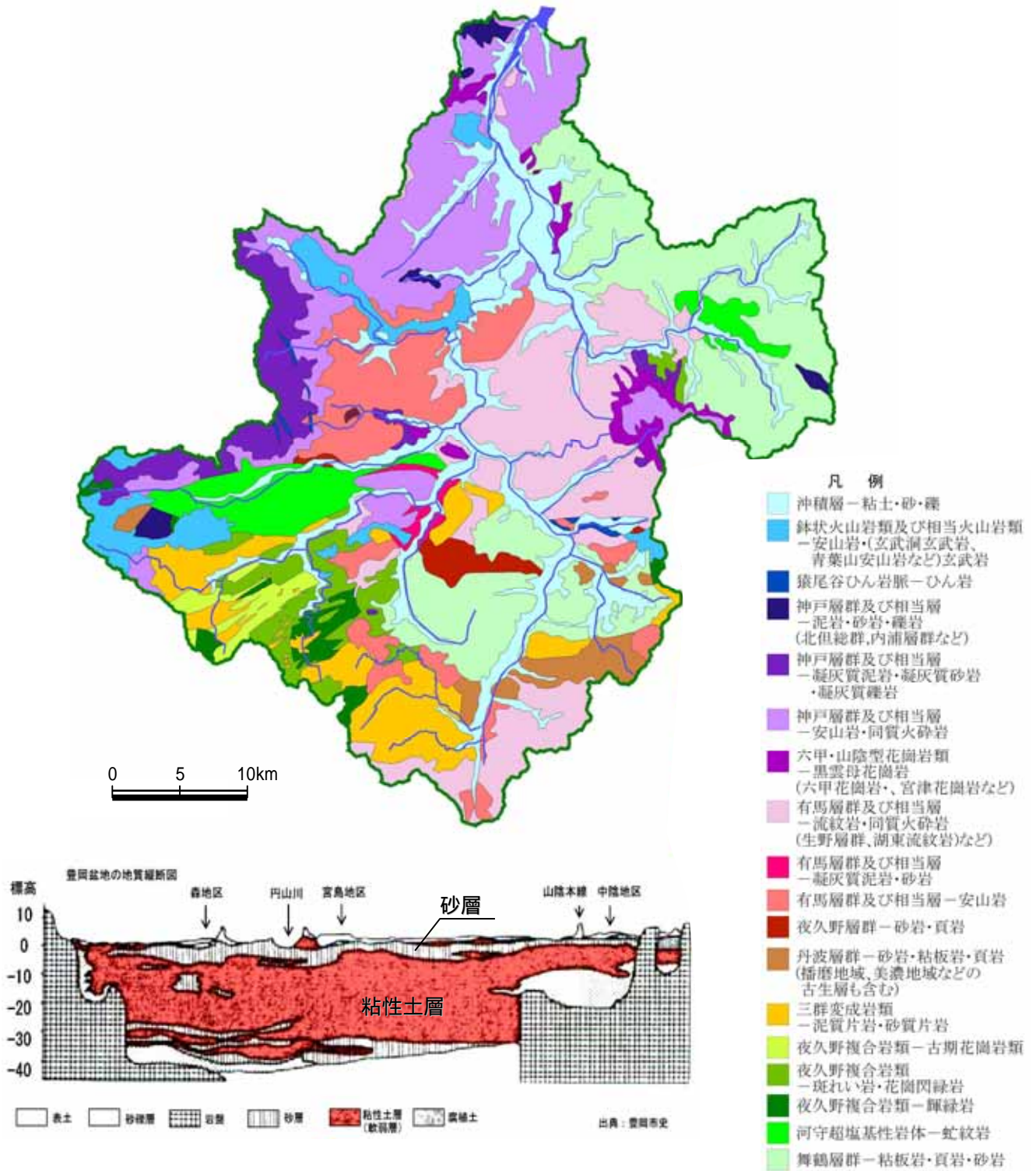


図 1-3 円山川流域地質図

### 1-4 気候・気象

流域の気候は、典型的な日本海型気候区に属し、冬季は山地部で降雪が多く、年平均気温は14程度、年平均降水量は約2,000mm程度である。夏はフェーン現象により気温が上昇することが多く、8月の月平均気温は豊岡盆地が兵庫県下他の地域よりも高い傾向にある。また、秋から冬にかけては霧の日が多いことも特徴である。冬は季節風の影響を受け、曇りや雪の日が多く、気温の季節変化が大きい。

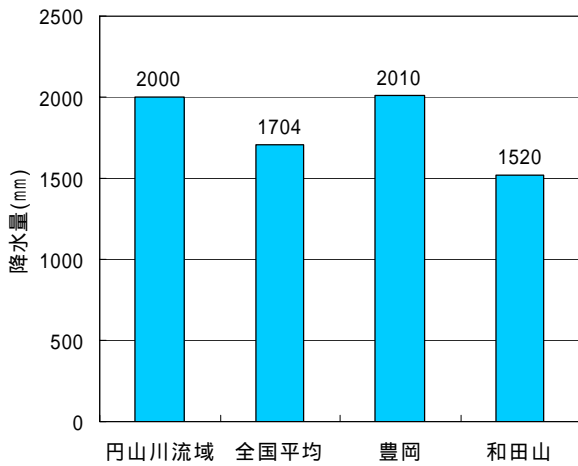


図 1-4 年間降水量の比較

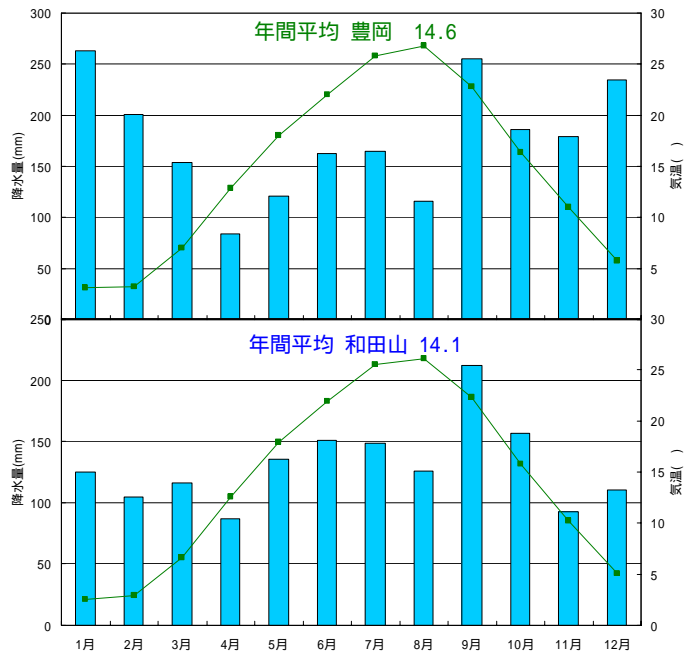


図 1-5 月別平均気温と月別平均降水量  
(H8～H17までの10年間の平均)

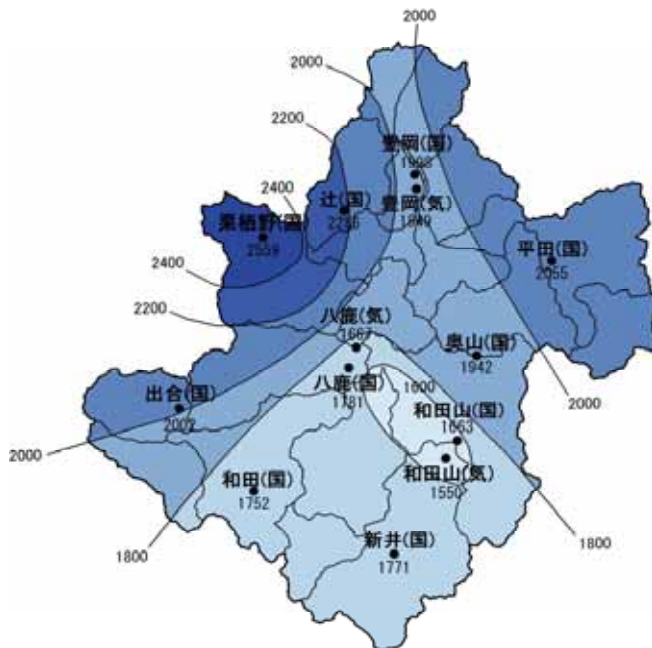


図 1-6 年平均降水量の分布(mm)  
(H8～H17までの10年間の平均)

出典：気象庁 HP、国土交通省データ

年間降水量の平均値は以下のとおり

- ・ 円山川流域は、H8～H17までの10年間の平均値
- ・ 全国平均は、「理科年表」記載の全国主要観測所におけるS36～H2までの30年間の平均値
- ・ 豊岡と和田山は、気象庁 HP によるS51～H17までの30年間の平均値